

「今後の津山市立小中学校の体制整備に関する基本方針」（案）に関する意見と考え方

番号	ページ	項目	意見	市の考え方
1	P-2	2 体制整備の検討を行う要件	「5か年間の将来推計から・・・」とありますが、そのためには、基本方針策定時から5年間の予想値が解る資料を添付する必要があると考えます。例えば、清泉小学校の令和5年度の入学予定者4人を聞いております。その後どうなるのでしょうか。	ご指摘の資料については、今後、基本方針を公表する際にあわせてホームページ上に掲載し、主に中学校区を対象として開催する説明会においても、参考資料として準備いたします。
2	P-2	〃	複式学級の学級編制について説明が必要と考えます。	ご指摘の資料については、今後、基本方針を公表する際にあわせてホームページ上に掲載し、主に中学校区を対象として開催する説明会においても、参考資料として準備いたします。
3	P-3	(1)過小規模校（複式学級）に係る方策	「施設・設備の整備に要する時間・コスト・地域の実情に鑑み・・・」とありますが、財産活用課の作成した公共施設白書の学校関係を抽出して、資料として確認しておくことが必要と考えます。本来であれば、耐震化工事及び施設整備工事着手前に、本体制整備方針を策定しておくべきと考えます。 (校内通信環境、ノートパソコン、教室内空調設備など)	ご指摘の資料については、今後、基本方針を公表する際にあわせてホームページ上に掲載し、主に中学校区を対象として開催する説明会においても、参考資料として準備いたします。 また、各地区で協議される体制整備の方向性に関する議論の過程で、学校資産の有効活用等の観点から多角的な検討をすることも必要と考えております。
4	P-3	〃	喬松小学校、清泉小学校の複式学級は、令和5年度はどうなるか、令和5年度新入生の予定を含めて教えをお示しください。	ご指摘の資料については、今後、基本方針を公表する際にあわせてホームページ上に掲載し、主に中学校区を対象として開催する説明会においても、参考資料として準備いたします。
5	P-3	〃	総務文教委員会勉強会での説明においても、資料説明が複数にまたがっていました。課題の複雑化しないで、ポイントを絞って、説明することが必要と考えます。 例えばですが、過小規模（複式学級）の予測される学校を捉えて、説明することで、説明のポイントが明確になります。	今後、主に中学校区を対象として開催する説明会では、地域の実情に応じてポイントを絞り、わかりやすい説明をいたします。

「今後の津山市立小中学校の体制整備に関する基本方針」（案）に関する意見と考え方

番号	ページ	項目	意見	市の考え方
6	全体		基本方針決定後に、具体的な方策（実行計画）が協議されることになると考えます。 総論賛成、各論反対にならないようにするには、学校任せにならないように、教育委員会が主体的に保護者の皆さんと話し合う機会が必要と考えます。 例えばですが、清泉小学校の入学児童が1名となると予想された時点で、幼児の保護者との懇談会を開催することを進めて欲しいです。	今後、体制整備に関する協議等は、教育委員会が主体となり、関係する方々からご意見を伺ってまいります。
7	全体		今後の津山市立小中学校の体制整備に関する基本方針は施行すると、保護者を含め忘れてしまう可能性があります。 PDCAサイクルを回す上で、年に1回は、「振り返りの機会」を設けて頂きたい。 CS（コミュニティースクール）の部会での議論、報告でも可能です。	基本方針について、あらゆる機会を捉えて丁寧に説明するとともに、ホームページ等を活用して積極的に情報発信いたします。
8	P-3	(1)過小規模校（複式学級）に係る方策	「近隣小学校同士の統合」 安易な小学校同士の統合には、反対であるが、津山市立河辺小学校と津山市立大崎小学校は、距離的に近いので、統合しても良いかと感じる。	個別の事案につきましては、各地域の説明会において意見聴取させていただきます。
9	P-3	(1)過小規模校（複式学級）に係る方策	近隣小学校との併合には反対。久米地域の中正、喬松、秀実小学校は誠道小学校より人数が少ないが、子供たちが歩いて通学するには遠すぎる。併合するのであれば、久米グラウンド辺りか3校の間距離に新たに学校を建設するしかないが、建設費等、市民に負担がかかるのであれば反対。旧津山市内も同じ。	通学距離等、中学校区ごとの個別の事案につきましては、地域説明会において、意見聴取させていただきます。

「今後の津山市立小中学校の体制整備に関する基本方針」（案）に関する意見と考え方

番号	ページ	項目	意見	市の考え方
10	P-3	(2) 小中一貫教育の実施を目指す学校への方策	「中一ギャップ」を極力なくすために、地域の小中学校を統合して、小中一貫にして頂きたい。1年生から9年生もいいと思います。学年は多いクラスで1クラスの人数を少なめになることが理想論だと思います。ぜひこの先の津山市の未来を考えて、検討をお願い致します。	今後、主に中学校区を対象として開催する説明会では、体制整備の方策の特徴やメリットデメリット等を丁寧に説明し、意見聴取させていただきます。
11	P-3	(1) 過小規模校（複式学級）に係る方策	単純に考えれば③「近隣小学校同士の統合」がよくある方策だと思いますが「小中連携による学校づくり」を目指していることを鑑みれば、①「中学校と複数の小学校の義務教育学校化」又は②「中学校と複数の小学校の小中一貫型小学校・中学校化」の方策が良いように思われます。ただ①と②の違いが分かりづらいため、そこは詳しく知りたいと思いました。	今後、主に中学校区を対象として開催する説明会では、体制整備の方策の特徴等を丁寧に説明し、意見聴取させていただきます。ご指摘の資料については、今後、基本方針を公表する際にあわせてホームページ上に掲載し、主に中学校区を対象として開催する説明会においても、参考資料として準備いたします。
12	P-3	検討の進め方（保護者・地域との協議）	実際に方策を決定するにあたっては、保護者や地域の方々から様々な意見が挙がるのが考えられます。いよいよ児童数が減少し過小規模化が現実味を帯びてから急に検討、となっても理解が得られにくいかもしれません。そこで、現在各学校が抱えている課題とその解決策、津山市が目指す「魅力ある学校づくり」のために日頃行っていること、各体制整備の方策で考えられるメリット・デメリットについて、機会があるごとに保護者や地域の方々に周知し理解していただくことで、今後検討する際にどういった体制整備が子供達のためになるのか、しっかりとした協議が行えるのではないかと思います。	本市が目指す教育等については、説明会だけでなく、あらゆる機会を捉えて、丁寧に説明してまいります。また、ホームページや教育委員会通信などの広報紙も利用して積極的な発信に努めてまいります。

「今後の津山市立小中学校の体制整備に関する基本方針」（案）に関する意見と考え方

番号	ページ	項目	意見	市の考え方
13	P-1～ 2	1. 本市の 目指す教育 2. 体制整備の検討 を行う要件	<p>意見</p> <p>1 ページ目 1. 本市の目指す教育の中の不登校の児童生徒への対応を行うなど様々な教育の解決を図っていく必要があります・・・</p> <p>2 ページ目 2. 体制整備の検討を行う要件の中の（2）教育課題の解決に小中一貫教育を推進することが有効・・・に関して</p> <p>様々な人と関わることは大切ですが、それは大規模な学校でないといけないことでしょうか。大規模がゆえにギャップを感じる子どもが多いことはおそらくご存知だとは思いますが、子どもは乗り越えるべきことなのかもしれませんが、それでも学校に行くことができなければ元も子もありません。</p> <p>つまり、小中一貫校を既存の小学校の中に設けてほしいのです。さらに、既存の中学校へ行ってもいいし、既存の小学校内の中学校へ行ってもいいという複数の選択肢を与えてあげたいのです。授業に関してはせっかく一人一台タブレットが貸与されているので、それをしっかり利用してほしいです。そもそも授業自体も録画でいいと思います。（しかも外注）授業をする時間をぜひ、子どもたち一人ひとりを見る時間にあてていただきたいです。子どもはそれぞれ違います。その子にあったオーダーメイドの、カスタムメイドのプログラムを組んで、子どもたちが一番やる気のでるようにサポートをしていただきたいのです。</p> <p>子どもたちは未熟です。多かれ少なかれトラブルを抱えたとき、居場所があるとそれだけで救われます。（親もです。）それが通いなれた小学校にあると思えば印象は違います。初めてのこと・場所・人が苦手な子どもにとっては特に。</p> <p>余談ですが、もっともっと先生やサポートの職員の数を増やしていただき、子どもにそれが還元できるのならそれは少子化対策につながり、雇用を生み、人口が増え、質の良い教育を受けることにより犯罪が減り、住みよい街になるのではないかと個人的には思います。夢ではないと思います。</p> <p>過小規模の学校を統合することはハイリスクな気がします。小学生のうちから遠い所へ通い、地元愛もさほど感じず、アイデンティティは確立されず、負担感が増すと思います。</p>	<p>今後、主に中学校区を対象として開催する説明会では、体制整備の方策の特徴やメリットデメリット等を丁寧に説明いたします。</p> <p>また、個別の事案につきましては、説明会において意見聴取させていただきます。</p>

「今後の津山市立小中学校の体制整備に関する基本方針」（案）に関する意見と考え方

番号	ページ	項目	意見	市の考え方
14	P-2～ 3	2 体制整備の検討を行う要件	<p>・小中一貫教育にするなら、一学年に少なくとも2つ以上のクラスが存在するように、生徒数を確保してほしい。</p> <p>・徒歩、自転車通学が難しい距離の地域はスクールバスを出してほしい。</p> <p>「2 体制整備の検討を行う要件」に加茂地域の小中学校も追加していただきたいです。</p> <p>・現在、加茂中学校に進学する生徒が、加茂小学校一校からのみ、という状況をどうにかしてほしいです（複数の小学校からの進学を受け入れる、他の中学校と統合する、など）。今の学校体制なら、複数の小学校から進学し、小学校よりも多い人数で、小学校とは変化のある顔ぶれで学ぶ、学べるのが中学校進学の良い点でもあると思います。加茂中学校の全校生徒が60人ほど、というのは少なすぎます。加茂小学校の半分ほどの人数です。さみしい。部活動も限られてくると思います。小中通して顔ぶれが9年間変わらない(そのうちのほとんどは加茂保育園から同じ)。人間関係など、なにかトラブルを抱えたときにクラス替えがない、人数が少なく、決まった人間関係以外になりにくい、というのは苦しいです。</p> <p>「多様な他者との関わりの中での学び合いを実現」できているか疑問です。</p>	<p>今後、主に中学校区を対象として開催する説明会では、体制整備の特徴やメリットデメリット等を丁寧に説明いたします。</p> <p>また、通学距離等も含め、個別の事案につきましては、説明会において意見聴取させていただきます。</p>

「今後の津山市立小中学校の体制整備に関する基本方針」（案）に関する意見と考え方

番号	ページ	項目	意見	市の考え方
15	全体		<p>「清泉小学校の将来に思う」                      教育は国家百年の計と聞いてきた。                      長い歴史を重ねてきた小学校はいつの時代も常に地域と共に歩んできた。今この地域も少子高齢化・若者の人口流出など時代や環境により児童数が大きく減少して、小学校の存続が危うくなってきた。もう増加する余地はないだろう。                      清泉小学校で学び育った地元で生活する者として児童数が減少して休校統合廃校になるのは忍びない。                      数年のうちに休校になると児童達はどうなるのか。保護者はどう思っているのか。地域住民は何をどうすればよいのか。                      少子化が進む中での学校問題、将来の不安と寂しい気持ちが一杯になる。お互いが支え合う、話し合う、少しでも夢や希望の持てる地域にするにはどんな工夫やしくみが考えられるか。                      私たちがもっと関心を持って学校と共にやっていけることがあるのか。疑問は次々あるが、どう整理してよいかわからない。でも何とかしなければならぬ。その気持ちばかりで老いる。結論として少子化時代の課題にどう向き合えばよいかわからないのが本音です。教育行政に携わる皆さんの英知に頼るばかりです。</p>	<p>今後、主に中学校区を対象として開催する説明会では、体制整備の特徴等を丁寧に説明し、保護者や地域の方の声を伺ってまいります。</p>
16	P-3	(1)過小規模校（複式学級）に係る方策	<p>一定数の児童がいなければ、学校内で多様な人間と関わり合いながら、学び成長することは難しいと思うため過小規模校において①～③※の対応になることは、仕方ないと思う。しかし、小規模であるため、児童一人一人の個性や学力に対応した教育が行われているという良い面もある。これからAI化が進む中、真に考えられる人間となるためには、画一的な詰め込み教育ではなく、一人一人に沿った教育が必要、先生の余裕も必要です。統廃合で一学年の総数が増えても小規模クラス（20人以下）を実施し、教員数を維持するよう要望する。</p> <p>※①中学校と複数の小学校の義務教育学校化、②中学校と複数の小学校の小中一貫型小学校・中学校化、③近隣小学校同士の統合</p>	<p>今後、主に中学校区を対象として開催する説明会では、体制整備の特徴やメリットデメリット等を丁寧に説明し、意見聴取させていただきます。</p>